

コーパスを利用した複合動詞「V1-抜く」の意味分析

杉 村 泰

キーワード：コーパス、複合動詞、「V1-抜く」、「抜く」、日本語教育

1. はじめに

本稿では〔拔出〕〔選抜〕〔穿孔〕〔看破〕〔貫通〕〔追い抜き〕〔突破〕〔貫徹〕〔極度〕の意味を表す日本語の複合動詞「V1-抜く」について、本動詞「抜く」と比較しながら論じる。

2. 先行研究

先行研究における「V1-抜く」の記述は次のとおりである。

○國廣（1976：153-155）

ヌク動作には二つの物体が関与している。「びんのコルク栓を抜く」と言うときの「びん」と「栓」がそれぞれ、両者を仮りに〈容器〉〈内容〉と呼ぶと、ヌク動作は簡単に言えば、容器から内容を引き出すことである。（中略）つまりヌクは、容器と内容が本来一体となって一つの完全な構成体をなす場合について用いられるらしいということである。このような微妙な点を確認するには転用法を吟味してみるのが有効である。

7a 朝食をヌク。（一日三食という食事体系の一部を省く）

b 仕事の手をヌク。（仕事を完全に仕上げるのに必要な手順の一部を省く）

7は緊密な構成体の一部を欠くことを指している。参照「骨ヌキにする」。

8a 塩漬の魚の塩をヌク。

b 洋服についたしみをヌク。

8は魚や洋服生地組織の中に深くはいりこんでいるものを取り出す場合で、容器と内容は非常に緊密に結びついている。次に完全分離の点を調べてみよう。

9a 競走相手をヌク。

b センターの頭上をヌク三塁打

9は、普通ならば通り過ぎることの難しいある限界を越えて、さらに少しでも離れていくことを意味している。

10a 難しい仕事をやりヌク。

b 城を守りヌク。

c 考えヌイタあげくの案です。

これもある限界を突破することを意味している。

○森田 (1989: 901-902)

-ぬく [-抜く] 接尾 (動詞型活用)

他の動詞に付いて“最後まで完全に”“非常に”の意を添える。

分析1 「抜く」は、その部分を向こう側まで完全に中を貫いてしまう。そうなるように、その部分を完全に取り除く。そこから「栓を抜く」「刺を抜く」「歯を抜く」のような“刺さっているものを引っ張って取り出す”意や、「文字の部分の部分を白く抜く」「ドーナツ型で抜く」「気を抜く」「ガスを抜く」「色を抜く」「臭みを抜く」「(トランプで)カードを抜く」「説明を抜いてすぐ始めよう」「無作為に調査カードを抜く」のような、“その部分、その事柄を除き去る”“取り出す”意ともなる。

さらに、中間にある部分や物を越えて向こう側へと達する意から「足で床板を抜く」「パンチでカードを抜く」「矢が的を抜く」の“貫く”となり、また、“抵抗のある部分を越えてその先へ出る”意から「リレーで三人抜く」「競争相手を抜いて一位になる」「ライバルを抜く」などの用法も生まれる。

分析2 他の動詞に付いた場合も、ほぼ本動詞と軌を一にして、同様、各段階の複合動詞を作る。

<抜き取る>うろ抜く (=おろ抜く)、引き抜く、ひっこ抜く

<除き取る>切り抜く、くり抜く、染め抜く

<選び出す>えり抜く、より抜く、書き抜く、すっば抜く

<貫く>打ち抜く、突き抜く、踏み抜く

<越えて前へ出る>追い抜く、出し抜く

ところで、「勝ち抜く」は“勝って競争者を追い抜く”ことであり、それが重なれば“勝ちつづけて最後までいく”ことでもある。「抜く」には、個々の“抜いていく”行為と、総合して“その行為全体を完全になし終える”意とを含む。「見抜く」も、個の立場に視点をすえれば“その事柄を奥まで見透かす”ことであるが、全体の立場から見れば、“その事柄の全体を完全に見通す”ことでもある。

ここから「-ぬく」は、動作性の動詞に付いて、“その動作を最後まで完全に行う”意を添え、さらに状態性の動詞に付いて“非常に……する”強調意識へと高ま

る。

「生きぬく、しぬく、知りぬく、粘りぬく、守りぬく、悲しみぬく、困りぬく、弱りぬく」など。

関連語 -とおす

(中略)

継続行為もしくは反復行為として最後まで……しつづけること。「-ぬく」が行為・状態の程度が極大限界に到達しているさまを表すのに対し、「-とおす」は、時間的に最終段階に至るまで同じ状態を続けることを表す。したがって、時間性を伴わぬ「知りぬく、悲しみぬく、弱りぬく、困りぬく」などは「-とおす」で表すことができない。「-とおす」は名詞形「一日中歩き通しだった」「終点に着くまで立ちどおしなので疲れた」のように行為の継続に重きが置かれ、「相手を知りぬく」のような対象とする事柄を徹底的に完全に成し遂げる意はない。「-ばなし」に近い。

○田他 (1998 : 582-583)

「～抜く」にも「仕事をやり抜く・城を守り抜く・交渉で粘り抜く・一人の人を思い [ほれ] 抜く・ゴールまで走り抜く・試験まで頑張り抜く」など、最後までするという意味があり、動作・行為の場合、時間の長さに関係なく、極限まで完璧に・徹底して行うことを表し、「～通す」に置き換えると、長期にわたって飽きず繰り返し、最後の段階まで同じ動作・行為を続けることになり、「長期の仕事 [戦争・交渉・片思い]・マラソン・大学入試」の場合になる。

「主張を曲げず言い [押し] 通す・1着 [1冊] のスーツ [哲学書] を着 [読み] 通す・2時間ぶっ通しでしゃべる・自説を立て通す・うそをつき通す・1週間雨が降り通す・1日を歩き通す」など、時間の長さ重点のある場合は「～抜く」に置き換わらない。「困り [弱り・悩み] 抜く・悲しみ抜く」など、「～抜く」が極限の状態を表す場合は「～通す」に置き換わらない。

○城田 (1998 : 145)

・ヌクはうごきが持続され最終段階に至ることを示すが、それに対する逆流 (抵抗、困難な条件) のあることがなんらかの程度に予定される。売りヌク、生きヌク。それ以外に、・トゲル (為シトゲル) があるが、困難な仕事であるというふくみがある。

○姫野 (1999 : 185-190)

A 語彙的複合動詞

「～ぬく」の複合動詞	自動詞か他動詞か	意味特徴
対象 [を] ～ぬく 板を 打ちぬく 釘を 引きぬく	他+ぬく=他	貫通 抜去

[貫通]: 射ぬく うがちぬく 突きぬく 踏みぬく 打ちぬく ぶちぬく ぶんぬく ぶっこぬく / 見ぬく

[抜出]: くりぬく 抉りぬく 彫りぬく 染めぬく 引きぬく 引っこぬく 切りぬく 鋳ぬく

[選抜]: えりぬく よりぬく 書きぬく 選びぬく

[抜駆]: 追いぬく 出しぬく 駆けぬく

・前項動詞は、「ぬく」を修飾し、その手段を表している。

・「見ぬく」は、上の語のような具体的動作は示さず、抽象的な意味に転化している。

B 統語的複合動詞

1. 人が 対象 [を] ～ぬく 親が 子を 鍛えぬく 人が ～ぬく 子供が 走りぬく	他+ぬく=他 自+ぬく=自	貫徹 ¹⁾
2. 人が ～ぬく 若者が 悩みぬく	自+ぬく=自	極度

[1. 貫徹]: 愛しぬく 憧れぬく いじめぬく 嫌いぬく 惚れぬく 憎みぬく … 戦いぬく … 守りぬく … 歩きぬく 走りぬく 泳ぎぬく 投げぬく … 考えぬく … やりぬく 暴れぬく 勝ちぬく 生きぬく … 売りぬく 調べぬく 読みぬく

・このグループの「ぬく」には、意志を「つらぬく」という意味が含まれている。

・「ぬく」のつく前項動詞は、人の意志的行為を表すものである。単純な動作などにはつかない。ある目的をもって貫徹することに意味のあるような行為に限られる。したがって、日常茶飯事的な行為「野菜を炒める」、「ごみを捨てる」などという語にはつかないし、「笑う」とか「泣く」のような続けることに意味のない語にもつかない。

[2. 極度]: 苦しみぬく 困りぬく 弱りぬく 悲しみぬく もめぬく 知りぬく 承知しぬく 退屈しぬく ひがみぬく

・このグループは、「非常に、とことんまで」という強い程度を表す。前項動詞は人の精神状態に関するもので、マイナス評価を表す語が多い。「～ぬく」は、状態を

表すのであるから、無意志動詞となる。例えば、「知る」と「承知する」は意志的動詞であるが、「ぬく」がつくと、「知りぬきたい」とか「承知しぬいてください」というような意志的表現はできなくなる。

このような無意志性は、1の「貫徹」のグループと大きく違う点であるが、その状態がある期間を経たものであるという点は、共通している。

○陳 (2011 : 39-51)

「～抜く」の多義的意味のいずれも中心スキーマである「進行方向にある妨げるものを克服する」と関連付けている。

「～抜く」		
領域	克服する (例)	妨げるもの
空間領域	貫通 (撃ち抜く)	前に立ち塞がるもの
	拔出 (引き抜く)	必要のないもの
	選抜 (選び抜く)	数量が多いもの
	抜駆 (追い抜く)	レベルの高いもの
認識領域	本質を知る (見抜く)	内面にあるもの
時間領域	行為の貫徹 (戦い抜く)	時間が長いもの
	行為の完遂 (走り抜く)	距離が遠いもの
心理作用領域	心理活動の持続 (疑い抜く)	時間が長いもの
程度領域	極度の心理状態 (困り抜く)	(克服できない状態)

○許 (2013 : 27-36)

姫野 (1999) が述べている「選抜」「抜駆」の意味との関連性及び「～抜く」の完了アスペクトの意味との関連性を考慮し、(7) (杉村注: 下記のA類とB類) のようなネットワークを想定する。

意味A類 : 意味A①「拔出」→意味A②「選抜」

意味B類 : 意味B①「貫通」→意味B②「目標物を追い抜く動き」→
意味B③「目標実現の追求」

3. 本動詞「抜く」の意味

複合動詞「V1-抜く」について見る前に、まず本動詞「抜く」の意味について見ておく。「抜く」は多義的な動詞であるが、大別すると次の3種7類に整理できる。これらの意味関係とイメージを図1に示す。

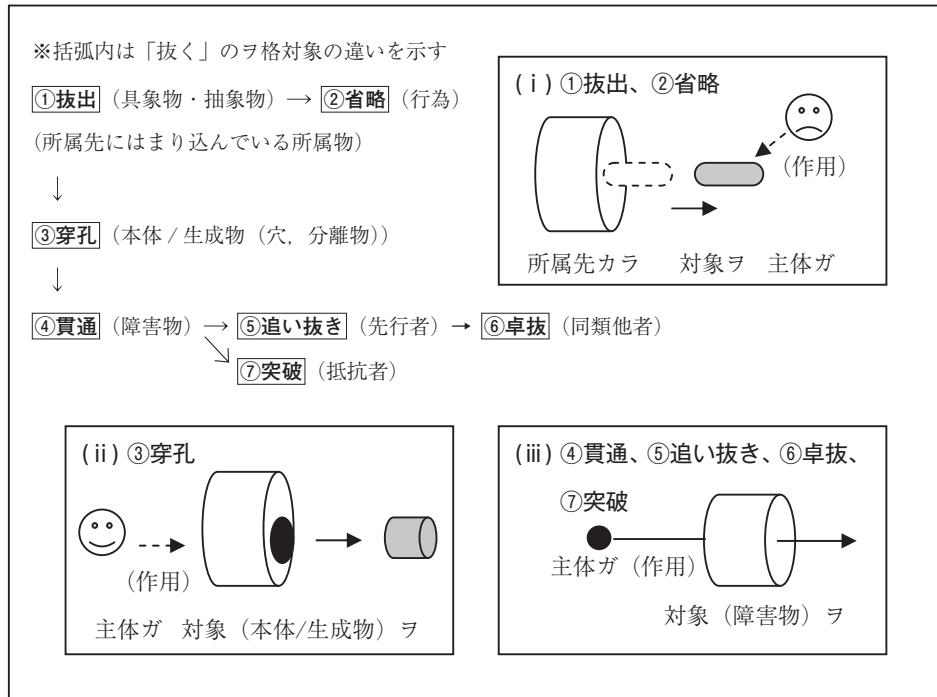


図1 本動詞「抜く」の意味関係とイメージ

(i) 〈主体〉が〈所属先〉から〈所属物〉を引き出す (①**拔出**、②**省略**)

この場合、〈所属先〉と〈所属物〉は容器と中身の関係にあり、〈所属物〉は〈所属先〉にはまり込んでいる。〈主体〉はこれを〈所属先〉の抗力に逆らって引き出す。この時、〈所属物〉が「釘」などの具象物や「籍」などの抽象物の場合は「拔出」を表し、「説明」など行為の場合は「省略」を表す。

(ii) 〈主体〉が〈道具〉によって〈対象〉からその一部を切り出す (③**穿孔**)

この場合、〈主体〉が〈対象〉の抗力に逆らって対象の一部を本体から取り出す点では (i) と共通している。しかし、この場合の〈対象〉は元々一個体であったものが、〈主体〉による穿孔によって本体 (穴の開いた方) と生成物 (穴もしくは分離物) に分離される点において (i) とは異なる。

(iii) 〈主体〉が〈対象〉を突破する (④**貫通**、⑤**追い抜き**、⑥**卓抜**、⑦**突破**)

この場合、〈主体〉が〈対象〉の抵抗に逆らってそれに穴を開ける点では (ii) と共通している。しかし、その穴は〈道具〉ではなく〈主体〉自身によって空けられる点で (ii) とは異なる。この時、〈主体〉と〈対象〉が矢と的のような関係にある場合は「貫通」、後行者と先行者の関係にある場合は「追い抜き」、主体が対象群から抜け出てリードした状態にある場合は「卓抜」、勝負における自分と相手の関係に

ある場合は「突破」を表す。

この3種7類の「抜く」をさらに細かく分類し、自動詞の「抜ける」と対比して示すと表1のようになる。表1は國廣(1979)、森田(1989)、田他(1998)、山田(1989)、林(1993)、松村他(1995)などを参考にまとめ直したものである。本稿の特徴は、従来断片的な記述であったものを、格関係の相違によって分類し直し、「抜く」と「抜ける」の対応を明確にし、意味的に近いものを隣接して並べた点にある。

表1 本動詞「抜く」と「抜ける」の対比

他動詞「抜く」の意味	自動詞「抜ける」の意味
<p>①抜出</p> <p>①-1 人が所属先カラ所属物ヲ引き出す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科医が口から歯を抜く。(cf. 引き抜く) ・(板から釘・指から刺・瓶から栓・風呂から水・トンネルからガス・体からアルコール・服からしみ・生地から色・柿から渋・腰から刀・名簿から名前・本からページ・畑から大根・財布から千円札・政治から足)を抜く。 <p>※一般によく使われる「コンセントを抜く」は「プラグを抜く」の誤り。</p>	<p>①脱落</p> <p>①-1 所属先カラ所属物が離脱・脱落する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口から歯が抜ける。 ・(板から釘・指から刺・瓶から栓・風呂から水・トンネルからガス・体からアルコール・服からしみ・生地から色・柿から渋)が抜ける。 ・(腰から刀・名簿から名前・本からページ)が抜ける。 ・*(畑から大根・財布から千円札・政治から足)が抜ける。 <p>※所属物に所属先から自然に離脱する性質がある場合か、不注意による脱落の場合にしか使えない。</p> <p>※一般によく使われる「コンセントが抜ける」は「プラグが抜ける」の誤り。</p>
<p>①-1の派生 ヲ格にビールやシャンパンなどの酒類を取り、それが入った瓶の栓を抜いて、中身が飲める状態にする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シャンパン(*ジュース・*醤油)を抜く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・*シャンパン(ジュース・醤油)が抜ける。
<p>①-2 人が同種の物の中カラー一部ヲ選抜する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検査員が製品から不良品を抜く。 ・手品師がトランプの山からカードを一枚抜く。 <p>(cf. 引き抜く、選び抜く)</p>	<p>①-2 同種の物の中カラー一部が離脱・脱落する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・*製品から不良品が抜ける。(自発性なし) ・トランプの山からカードが一枚抜ける。(無意識のうちの離脱・紛失)
<p>①-3 人が他の所属先カラ人材ヲ引き入れる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A社がB社からエリート社員を抜く。 <p>(cf. 引き抜く)</p>	<p>①-3 人材が所属先カラ流出する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・B社からエリート社員が抜ける。
<p>①-4 人が所属先カラ籍ヲ離脱させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は結婚して、親の戸籍から籍を抜いた。 	<p>①-4 所属先カラ籍が離脱する(⑨-2参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は結婚して、親の戸籍から籍が抜けた。

<p>①-5 人が心身カラ気持ちや力ヲ流出させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最後まで気を抜くな。 ・彼は体から力を抜いた。 ・*彼から子供っぽさを抜いた。 <p>※コントロール可能な場合にしか使えない。</p>	<p>①-5 心身カラ気持ちや力や性質が流出する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・彼は気が抜けた。 ・彼は体から力が抜けた。 ・彼から子供っぽさが抜けた。
<p>①-6 人が強烈な印象ヲ / 強烈な印象ガ 経験主の体から臟腑ヲ引き離すほど驚かせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・彼は新作映画で観客の度肝を抜いた。 ・彼の新作映画が観客の度肝を抜いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観客は彼の新作映画に度肝 *が抜けた / を抜かれた 。
<p>①-7 人が演目や文章カラ重要箇所ヲ抜粋する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一座は公演で見せ場を抜いて上演する。 ・教科書から試験に出そうなところを抜く。 ・先行研究の論文を抜いて書く。 <p>(c.f. 書き抜く、素っ破抜く)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・*公演で見せ場が抜けている。 ・*試験に出そうなところが抜けている。 ・*先行研究の論文が抜けている。 <p>(いずれも①-1の脱落の意味でなら可)</p>
<p>①-8 人が敵地ヲ攻め落とす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軍勢が敵の城(4つの村)を抜く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・*敵の城(4つの村)が抜ける。
<ul style="list-style-type: none"> ・彼は驚いて腰を *抜いた / 抜かした 。 	<p>①-6 人の腰ガ脱力して立たなくなる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・彼は驚いて腰が抜けた。
<ul style="list-style-type: none"> ・*彼は(頭を)抜いている。 ・*彼女は間を抜いている。 	<p>①-7 人に知力ガ不足している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・彼は(頭が)抜けている。 ・彼女は間が抜けている。
<p>②省略 人が一連の行為の中カラ一部の行為ヲ省く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人は一日ぐらい風呂を抜いても死なない。 ・彼はよく食事(挨拶・説明)を抜く。 ・彼は将棋で手を抜いた。 	<p>②省略 一連の行為の中カラ一部の行為ガ省かれる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一日ぐらい風呂が抜けても死なない。 ・食事(挨拶・説明)が抜ける。 ・将棋で肝心の手が抜けている。
<p>③穿孔</p> <p>③-1 人が道具デ対象ヲある形ニ切り出す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・染料で下地を白く抜く。(c.f. 染め抜く) ・彼女が型でクッキーを星形に抜く。 ・彼女がパンチで紙を抜く。 ・人が矢で的を抜く。 <p>(c.f. 切り抜く、剥り抜く、打ち抜く、射抜く)</p>	<p>③穿孔</p> <p>③-1 道具デ対象ガある形ニ切り出される</p> <ul style="list-style-type: none"> ・染料で下地が白く抜ける。(自発性あり) ・*型でクッキーが星形に抜ける。(自発性なし) ・*パンチで紙が抜ける。(自発性なし) ・*矢で的が抜ける。(自発性なし)
<p>③-2 人が道具デ対象ニ穴ヲ開ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・染料で下地に模様を抜く。(c.f. 染め抜く) ・彼女がクッキーの型を抜く。 ・彼女がパンチで紙に穴を抜く。 ・[?]人が矢で的に穴を抜く。(この場面が少ない) <p>(c.f. 切り抜く、剥り抜く、打ち抜く)</p>	<p>③-2 道具デ対象ニ穴が開く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・染料で下地に模様は抜ける。(自発性あり) ・*クッキーの型が抜ける。(自発性なし) ・*パンチで紙に穴が抜ける。(自発性なし) ・*矢で的に穴が抜ける。(自発性なし)

<p>③-3 人や物が何らかの力デ対象ヲ突き破る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供が暴れて床を<u>抜く</u>。(c.f. 踏み抜く) ・火事の炎が天井を<u>抜く</u>。(c.f. 噴き抜く) ・* 中身が重すぎて / 古くなって 、バケツの底を<u>抜く</u>。(自発的) <p>※静的負荷や自然変化による場合は使えない。</p>	<p>③-3 人や物や自然変化デ対象が突き破られる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供が暴れて床が<u>抜ける</u>。 ・火事の炎で天井が<u>抜ける</u>。 ・ 中身が重すぎて / 古くなって 、バケツの底が<u>抜ける</u>。
<p>・*空を<u>抜く</u>ように青い。</p>	<p>③-4 空が曇りなく透き通る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空が<u>抜ける</u>ように青い。
<p>④貫通</p> <p>④-1 物が対象ヲ突き破る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・矢が的を<u>抜く</u>。(c.f. 射抜く) <p>※この「抜く」は少し古い言い方で、普通は「貫(つらぬ)く」と言う。</p>	<p>④貫通</p> <p>④-1 物が対象ヲ突き通る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・矢が的を<u>抜ける</u>。(c.f. 突き抜ける)
<p>④-2 ボールガ敵の守備ヲ突き通る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・打球が三遊間(センターの頭上)を<u>抜く</u>。 	<p>④-2 ボールガ敵の守備ヲ突き通る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・打球が三遊間(センターの頭上)を<u>抜ける</u>。 <p>(c.f. 転がり抜ける、突き抜ける)</p>
<p>・*山のこちら側から向こう側までトンネル(道・鉄道)を<u>抜いている</u>。</p>	<p>⑤通り抜け</p> <p>A地点からB地点まで交通路ガ通じる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山のこちら側から向こう側までトンネル(道・鉄道)が<u>抜けている</u>。(c.f. 通り抜ける)
<p>⑤追い抜き</p> <p>人や成長する物が先行者ヲ追い越す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後ろの車が前の車を<u>抜く</u>。(c.f. 追い抜く) ・マラソン選手が5人<u>抜く</u>。 ・中国経済が日本経済を<u>抜く</u>。 ・息子の身長が親を<u>抜いた</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> ・*後ろの車が前の車を<u>抜ける</u>。 ・*マラソン選手が5人を<u>抜ける</u>。 ・*中国経済が日本経済を<u>抜ける</u>。 ・*息子の身長が親を<u>抜けた</u>。 <p>(④の「貫通」とは違い「抜ける」が不可)</p>
<p>⑥卓抜</p> <p>人や物の能力や質ガ同類他者ヲ超越する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・彼は社内で頭地を<u>抜いている</u>。 ・彼の成績はクラスで群を<u>抜いている</u>。 	<p>⑥卓抜</p> <p>人や物の能力や質ガ同類他者ヲ超越する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・彼は社内で頭一つ<u>抜けている</u>。 ・彼の成績はクラスで頭一つ<u>抜けている</u>。 <p>(c.f. 飛び抜ける、突き抜ける)</p>
<p>⑦突破</p> <p>⑦-1 人が抵抗する障害物ヲ突き通る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・騎馬隊が敵陣 を / *から <u>抜く</u>。 ・老紳士が人ごみの中 *を / *から <u>抜く</u>。 <p>(c.f. ? 走り抜く、*通り抜く)</p>	<p>⑦突破</p> <p>⑦-1 人が抵抗する障害物ヲ突き通る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・騎馬隊が敵陣 を / *から <u>抜ける</u>。 ・老紳士が人ごみの中 *を / *から <u>抜ける</u>。 <p>(c.f. 走り抜ける、通り抜ける)</p>
<p>⑦-2 人が勝負で勝ち進む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・じゃんけん大会で10人<u>抜く</u>。(c.f. 勝ち抜く) 	<p>⑦-2 人が勝負で勝ち進む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・じゃんけん大会で10人<u>抜ける</u>。(c.f. 勝ち抜ける)

<p>・人が裏道（トンネル） *を/*から <u>抜く</u>。</p> <p>・風が家の中を *を/*から <u>抜く</u>。</p>	<p>⑧通過</p> <p>人や風が經由地ヲ突き通る</p> <p>・人が裏道（トンネル） を/*から <u>抜ける</u>。</p> <p>(c.f. 通り抜ける)</p> <p>・風が家の中を を/*から <u>抜ける</u>。(c.f. 吹き抜ける)</p>
<p>・彼女は列（会社・宴席・暴走族） *を/*から <u>抜いた</u>。</p> <p>(①-4参照)</p> <p>・彼は結婚して、親の戸籍 *から/*を <u>抜いた</u>。</p> <p>・蟬が殻（人が因習） *から/*を <u>抜いた</u>。</p> <p>・泥棒が窓（裏口） *から/*を <u>抜いた</u>。</p>	<p>⑨離脱</p> <p>⑨-1 人が所属先 ヲ/カラ 離れる・逃げる</p> <p>・彼女は列（会社・宴席・暴走族） を/から <u>抜けた</u>。(c.f. 切り抜ける、言い抜ける)</p> <p>⑨-2 人が所属先カラ外に出る (①-4参照)</p> <p>・私は結婚して、親の戸籍 から/?を <u>抜けた</u>。</p> <p>・蟬が殻（人が因習） から/?を <u>抜けた</u>。</p> <p>・泥棒が窓（裏口） から/?を <u>抜けた</u>。</p>

以上の本動詞「抜く」のうち、意味的に複合動詞「V1-抜く」に対応しているのは①-1, 2, 3, 7, ③-1, 2, 3, ④-1, ⑤, ⑦-2である。それ以外の「抜く」は対応する「V1-抜く」がなく、「*食事を食べ抜く」(②)や「*三遊間を打ち抜く」(④-2)などとは言わない。一方で、姫野(1999)で「B統語的複合動詞」とされる「守り抜く」(貫徹)や「弱り抜く」(極度)などは、対応する本動詞「抜く」を持たない。

4. コーパス調査

4.1 CD-ROM版「新潮文庫の100冊」の検索結果

次に、コーパスを利用して複合動詞「V1-抜く」の前項動詞(V1)にいかなる動詞が来るかを見る。本稿ではCD-ROM版「新潮文庫の100冊」とインターネットのWWWページをコーパスとして利用した。このうち、CD-ROM版「新潮文庫の100冊」からは全416例、前項動詞の異なり語数で72語の「V1-抜く」が抽出された。その概要を以下に示す。

コーパス：CD-ROM版『新潮文庫の100冊』

検索対象：日本人作家による67冊

検索方法：「抜く」、「ぬく」について活用形を含めて全て検索し、その中から複合動詞「V1-抜く」を手作業で抽出した。

検索結果：同じV1を取るもの同士まとめて表2に示す²⁾

表2 「V1-抜く」の出現数（『新潮文庫の100冊』）（全416例、異なり語72語）

	V1-抜く	出現数		V1-抜く	出現数		V1-抜く	出現数
1	見抜く	97	26	振り抜く	3	〃	とぼけ抜く	1
2	引き抜く	52	27	撃ち抜く	3	〃	凝り抜く	1
3	知り抜く	27	28	愛し抜く	2	〃	賞め抜く	1
4	追い抜く	26	29	嫌い抜く	2	〃	反対し抜く	1
5	染め抜く	15	30	粘り抜く	2	〃	突っ張り抜く	1
6	出し抜く	15	31	責め抜く	2	〃	苦しめ抜く	1
7	生き抜く	12	32	泳ぎ抜く	2	〃	なぶり抜く	1
8	考え抜く	11	33	遊び抜く	2	〃	読み抜く	1
9	切り抜く	11	34	鍛え抜く	2	〃	察し抜く	1
10	勝ち抜く	9	35	計算し抜く	2	〃	勤め抜く	1
11	削りぬく	9	36	振り抜く	2	〃	走り抜く	1
12	打ち抜く	8	37	踏み抜く	2	〃	洗い抜く	1
13	選び抜く	8	38	ぶち抜く	2	〃	揉み抜く	1
14	苦しめ抜く	7	39	駈け抜く	2	〃	磨かれ抜く	1
15	守り抜く	6	40	辛抱し抜く	1	〃	拭かれ抜く	1
16	耐え抜く	5	〃	恋し抜く	1	〃	嫌われ抜く	1
17	やり抜く	5	〃	溺愛し抜く	1	〃	彫り抜く	1
18	戦い抜く	5	〃	憧れ抜く	1	〃	刺し抜く	1
19	射抜く	5	〃	悩み抜く	1	〃	さし抜く	1
20	惚れ抜く	4	〃	慾張り抜く	1	〃	抉り抜く	1
21	苛め抜く	4	〃	没頭し抜く	1	〃	噴き抜く	1
22	迷い抜く	3	〃	恨み抜く	1	〃	ぶち抜く	1
23	困り抜く	3	〃	通し抜く	1			
24	堪え抜く	3	〃	笑い抜く	1			
25	調べ抜く	3	〃	泣き抜く	1			

4.2 Web 検索の結果

次にインターネットの WWW ページをコーパスとして「V1-抜く」の前項動詞（V1）の特徴を見る。WWW ページをコーパスとすることに関しては、「不自然な表現が混じる」、「文体差が見にくい」、「データの保存性が悪い」などの批判もある。しかし、「大規模データを検索することにより、普段あまり使わない表現を抽出することができる」、「書き言葉から話し言葉まで日本語の総体をひっくるめて検索できる」、「自然な表現から不自然な表現までどれくらいの頻度で出現するかを見ることができる」などの利点もある。³⁾ 以下に本稿における Web 検索の概要を記す。

コーパス：インターネットの WWW ページ

検索エンジン：goo のフレーズ検索 (<http://www.goo.ne.jp/>)

検索日：2007年2月3日～2007年2月7日

表3 「V1-抜く」の出現数上位90語 (WWW ページより)

	V1-抜く	出現数		V1-抜く	出現数		V1-抜く	出現数
1	生き抜く	149,810	31	売り抜く	344	61	貫き抜く	38
2	見抜く	141,018	32	繰り抜く ⁴⁾	341	62	楽しみ抜く	37
3	勝ち抜く	127,734	33	惚れ抜く	304	63	取り抜く	36
4	引き抜く	71,424	34	読み抜く	278	64	叩き抜く	35
5	切り抜く	58,386	35	歩き抜く	268	65	食べ抜く	34
6	追い抜く	46,271	36	彫り抜く	242	66	疑い抜く	33
7	考え抜く	31,473	37	踊り抜く	143	〃	探し抜く	33
8	守り抜く	29,562	38	働き抜く	139	〃	刺し抜く	33
9	やり抜く	29,120	39	責め抜く	125	69	使い抜く	30
10	選び抜く	28,425	40	調べ抜く	124	70	求め抜く	29
11	戦い抜く	24,921	41	吹き抜く	120	71	聞き抜く	26
12	出し抜く	16,908	42	困り抜く	116	72	騙し抜く	25
13	振り抜く	16,556	43	引っ張り抜く	115	〃	通り抜く	25
14	耐え抜く	15,350	44	描き抜く	103	74	負け抜く	22
15	射抜く	14,720	45	押し抜く	96	75	鏝抜く	20
16	打ち抜く	13,212	46	駆け抜く	75	〃	訴え抜く	20
17	撃ち抜く	7,552	47	遣り抜く	73	77	思い抜く	19
18	走り抜く	5,992	48	蹴り抜く	71	〃	催促し抜く	19
19	悩み抜く	5,118	49	迷い抜く	69	79	祈り抜く	18
20	闘い抜く	4,436	50	語り抜く	62	80	悲しみ抜く	15
21	知り抜く	3,139	51	堪(た)え抜く	60	〃	削り抜く	15
22	苦しみ抜く	2,250	52	泳ぎ抜く	53	82	受ける	14
23	投げ抜く	1,829	53	歌い抜く	50	〃	弾き抜く	14
24	信じ抜く	1,254	54	嫌い抜く	49	〃	回し抜く	14
25	頑張り抜く	1,169	55	通し抜く	46	85	煮抜く	13
26	書き抜く	863	56	逃げ抜く	45	86	生かし抜く	12
27	掘り抜く	813	57	遊び抜く	43	〃	伝え抜く	12
28	磨き抜く	480	58	言い抜く	42	〃	弱り抜く	12
29	愛し抜く	450	〃	滑り抜く	42	89	立て抜く	11
30	攻め抜く	403	60	焼き抜く	39	〃	潜り抜く	11

検索方法：前項動詞は『日本語基本動詞用法辞典』にある852語を含む1,071語を対象とし、これらと「抜(く、いた、かない、かなかった、きます、きました、きません、いて)」の8つの活用形との共起について検索した。表3にはその合計ヒット数を示してある。

今回調査した1,071語の動詞のうち、「V1-抜く」と1件以上共起したものは295語であった。表3に「V1-抜く」の検索結果を示す。

上記のWeb検索では、「染め抜く」と「削り抜く」は検索対象に含めていなかったが、

追加調査でこれを行った。⁵⁾ その結果、先の CD-ROM 版『新潮文庫の 100 冊』で上位に出現した「V1-抜く」は、Web 検索でも上位に来ていることが分かる。

5. まとめ

3 節で示した本動詞「抜く」に倣って、4 節で抽出した複合動詞「V1-抜く」を整理すると、図 2 に示される 4 種 9 類に分類できる。

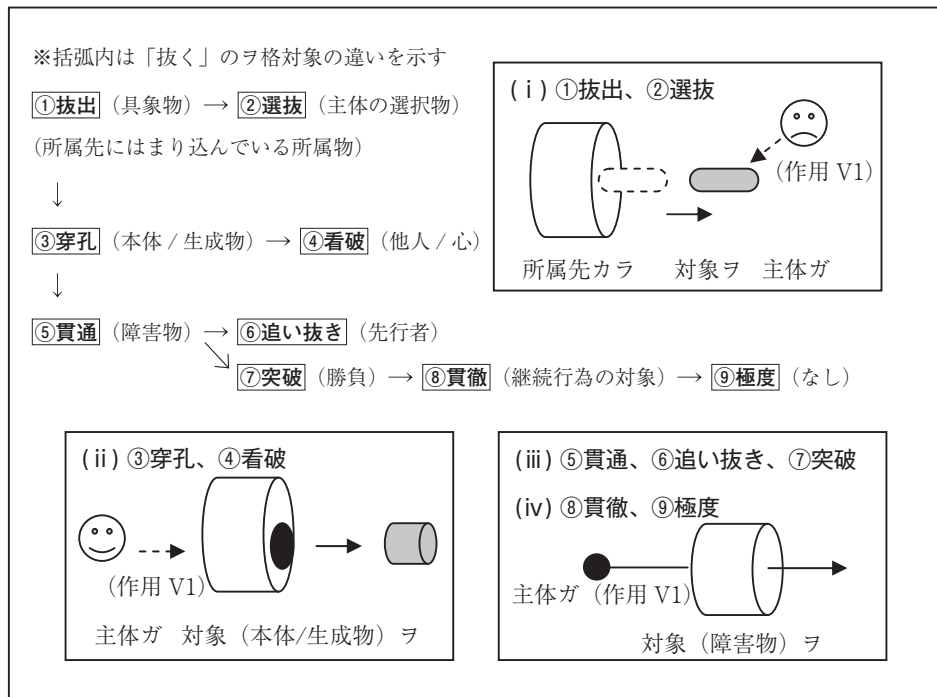


図 2 複合動詞「V1-抜く」の意味関係とイメージ

(i) 〈主体〉が〈所属先〉から〈所属物〉を引き出す (①抜出「引き抜く」、②選抜「引き抜く」「選び抜く」「書き抜く」)

この場合、〈所属物〉は〈所属先〉にはまり込んでおり、〈主体〉はこれを〈所属先〉の抗力に逆らって引き出すことを表す。この時、〈所属物〉が「釘」などの具象物の場合は「引き抜く」のような複合動詞が存在するが、「籍」などの抽象物や「説明」などの行為の場合は単に「抜く」と言う。(i) の「V1-抜く」は基本的に「抜出」の意味を表し、特に主体が複数の対象の中から一部を選び出す場合に「選抜」

の意味を帯びる。なお、本動詞「抜く」の持つ「省略」の用法はない。

- (ii) 〈主体〉が〈道具〉によって〈対象〉からその一部を切り出す (③穿孔「染め抜く」「切り抜く」「踏み抜く」「射抜く」、④看破「見抜く」)

この場合、〈主体〉は〈対象〉の抗力に逆らって、〈道具〉によって対象の一部を本体から取り出すことを表す。この「穿孔」の意味における「本体と生成物」の関係が「他人とその心」の関係に派生し、〈主体〉の眼力(道具)によってその隠れた心を抉り出すことを表すようになると、「看破」の意味になる。

- (iii) 〈主体〉が〈対象〉を突破する (⑤貫通「射抜く」、⑥追い抜き「追い抜く」「出し抜く」、⑦突破「勝ち抜く」)

この場合、〈主体〉は〈対象〉の抵抗に逆らって、それを突破することを表す。この時、〈主体〉と〈対象〉が矢と的のような関係にある場合は「貫通」、後行者と先行者の関係にある場合は「追い抜き」、勝負における自分と相手の関係にある場合は「突破」を表す。なお、本動詞「抜く」の持つ「卓抜」の用法はない。

- (iv) 〈主体〉が行為を完遂する、〈主体〉の精神的状態が極限に達する (⑧完遂「生き抜く」「考え抜く」「守り抜く」、⑨極度「惚れ抜く」「困り抜く」「知り抜く」)

(iii) の「V1-抜く」が抽象化され、〈主体〉が自分に降りかかる困難な事態を振り払って目的を成し遂げることを表すのが「完遂」、〈主体〉の精神的状態が途中で止まらずに極限まで達するのが「極度」の意味である。

以上の4種9類の「V1-抜く」については、同じ完遂の意味を持つ「V1-通す」、「V1-切る」、「V1-尽くす」との違いなどについて、いま少し説明を加えたい。しかし、紙幅の関係で次号(『言語文化論集』35-2)に譲ることとする。

付記：本稿は平成22-25年度科学研究費補助金(基盤研究(B))(課題番号22320093)による研究成果の一部である。

注

- 1) 姫野(1999:185)の表では「貫徹」と「極度」が逆になっているが、表記ミスだと思われる。
- 2) 「戦い抜く、戦いぬく、闘い抜く、たたかいぬく」のように表記の違うものも、同じ意味で使われているものはまとめて集計してある。また、「引き抜く」51例の中には「引っこ抜く」9例も含めて入れてある。
- 3) 荻野(2007)や杉村(2007)では、WWWページが有用なコーパスとなりうることが実際の言語分析を通して論じられている。

- 4) 「繰り抜く」は「剥り抜く」をミスタイプした例である。
- 5) 2013年6月10日にWeb検索したところ、「染め抜く」は11,185件、「剥り抜く」は2,871件出現した。

参考文献

- 荻野綱男 (2007) 「コーパスとしての WWW 検索の活用」『月刊言語』第 36 卷第 7 号, 大修館書店, 26-33
- 國廣哲彌 (1976) 「モグ・チギル・ムシル・ツム・ヌク」柴田武・國廣哲彌・長嶋善郎・山田進 (編) 『ことばの意味 1』, 平凡社, 148-155
- 許 臨揚 (2013) 「複合動詞「～抜く」の意味と用法 — 認知言語学の意味関連の観点から」『認知言語学論文集』第 13 号, 27-36
- 小泉保・船城道雄・本田晶治・仁田義雄・塚本秀樹 (1989) 『日本語基本動詞用法辞典』, 大修館書店
- 城田 俊 (1998) 『日本語形態論』, ひつじ書房
- 杉村 泰 (2007) 「インターネットを利用した日本語の類義分析」『月刊言語』第 36 卷第 7 号, 大修館書店, 42-49
- 鷲見幸美 (2008) 「類義語ミトオス・ミスクの意味分析 — 心はどこに隠れているのか —」『名古屋大学言語文化論集』第 29 卷第 2 号, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科, 361-376
- 田忠魁・泉原省二・金相順 (編) (1998) 『日本語類似表現のニュアンスの違いを例証する類義語使い分け辞典』, 研究社
- 陳 毓瑾 (2011) 『日本語複合動詞「～抜く」、「～切る」、「～通す」の意味分析』國立政治大學日本語文學系碩士學位論文
- 林 巨樹 (監修) (1993) 『現代国語例解辞典』第二版, 小学館
- 姫野昌子 (1999) 『複合動詞の構造と意味用法』, ひつじ書房
- 松村明・山口明穂・和田利政 (編) (1995) 『旺文社国語辞典』第八版, 旺文社
- 森田良行 (1989) 『基礎日本語辞典』, 角川書店
- 山田忠雄 (主幹) (1989) 『新明解国語辞典』第四版, 三省堂